



本明川防災・減災フォーラムを実施！

～ 諫早大水害から60年、地域防災の新たなステージへ ～

■ 本明川防災減災フォーラム

平成29年7月23日(日)に諫早文化会館において、本明川防災・減災フォーラムを実施しました。昭和32年7月25日に諫早地域に甚大な被害をもたらした諫早大水害から60年の節目にあたり、フォーラムを通じて、諫早大水害を語り継ぎ、あの諫早大水害を教訓に、地域の皆様とともに「地域防災力の向上」や「災害に強いまちづくり」をめざすことを目的に開催しました。主催者である国土交通省九州地方整備局・本明川流域減災対策協議会(長崎河川国道事務所・長崎県・諫早市・長崎地方气象台)を始め、多くの参加団体等のご協力のもと実施することができ、ご来場頂いた一般の市民の方が約1,200人と多数の皆様にご聴講を頂きました。

開催挨拶では、宮本諫早市長、岩見長崎県土木部長、竹島九州地方整備局河川部長にご挨拶頂きました。



■ 開催挨拶



宮本諫早市長



岩見長崎県土木部長



竹島河川部長



会場内は、2階席まで埋まるほどの満員で熱心に聴講されていました。

■プログラム

<基調講演>



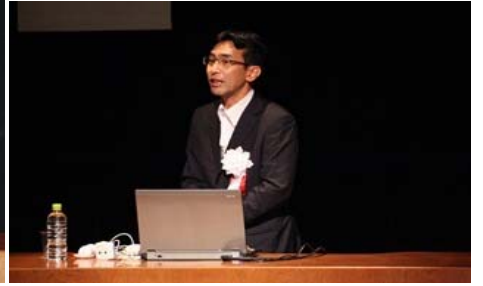
(一財)水源地環境センター森北理事長より、「諫早大水害から60年～防災・減災の新たなステージ～」をタイトルとして、日本の国土の特徴、地球温暖化と気候変動、水防災意識社会の構築等について、基調講演を頂きました。

<諫早大水害体験者談>



諫早市にお住まいの田河文乃さんより、諫早大水害の体験談として、濁流にのまれながらも流木につかまり、一夜を明かした壮絶な体験を語って頂きました。大水害当日の状況が思い浮かび、緊迫した説明に会場は、引き締まった雰囲気になりました。

<河川整備・減災取組報告>



長崎河川国道事務所垣原所長より、諫早大水害以降の本明川の安全・安心のために、本明川ダム建設事業など治水安全度向上に向けたハード対策や浸水被害想定区域図やタイムラインなど、逃げ遅れゼロに向けたソフト対策の取組みが報告されました。

<パネルディスカッション>



『大水害の教訓と、再び起こることを前提とした「地域防災力の強化による災害に強いまちづくり」とは』をテーマに、パネルディスカッションを実施しました。

ウエスレヤン大学佐藤学長(写真左)にコーディネーターを、(写真右左から)諫早市宮本市長、諫早市自治会古賀会長、本



明川を語る会中野会長、NPO法人としよかん広場野田事務局長、竹島河川部長にパネラーをつとめて頂きました。

古賀会長から、「普段から子供たちが川に親しむことで自然に防災意識を身につけてほしい」、中野会長から、「次世代に防災意識を引き継ぐには、総合学習等の取



り組みが重要」、また、野田事務局長からは「日常生活で防災の話をを行うのは困難なため、防災に取り組むきっかけを作ることが重要」等、各立場からご意見を頂きました。

最後に、佐藤学長より地域防災力の強化による災害に強いまちづくりについてまとめて頂きました。

<壁新聞コンクール表彰>



諫早市内の小中学生を対象に壁新聞コンクールを実施しました。多くの作品の中から、諫早市立諫早中学校2年 渡邊結衣さんが最優秀賞に選ばれました。

渡邊さんには、諫早大水害前後の気象や被害、復興の状況について、詳しくとても分かりやすくまとめて頂きました。その他に「諫早の自然文化新聞賞」「大水害を語り継ぐ新聞賞」「防災新聞賞」に6名の方が選ばれました。

<斉唱>



防災・減災フォーラムの締めくくりとして、コールすみれ、葡萄の会、諫早混声合唱団、諫早小学校、諫早中学校、鎮西学院高校の合計102名の方によるコーラスを行って頂きました。

地元の幅広い年齢層に「本明川に捧ぐ」を斉唱頂き、その素晴らしい歌声に会場は感動に包まれました。

<防災・減災パネル展、朗読>



関係機関による防災パネル展示、諫早手話サークルによる防災マップとグッズの展示



諫早東高校の瓦田未来さんによる「漂流十二時間」の朗読

【この資料のお問い合わせ】

長崎県長崎市宿町316-1 国土交通省九州地方整備局長崎河川国道事務所 河川管理課 TEL:095-839-9211